

1年道德通信

第11号

第11回『捨てられた悲しみ』

第11回目の道德では、ペット飼育についての啓発ポスターと、犬猫を収容するセンターで働くこすえさんと出会った筆者が、捨てられた犬や猫の殺処分の現状を知り、こすえさんの苦勞と苦惱、動物たちへの思いを記した文章から、「命の尊さ」について考えました。「飼わないことも愛情です。」に込められた思いを考え、自分の命はもちろんですが他者の命を大切にすることについて、もう一度しっかり考えてみましょう。

捨てられた悲しみは
どこに捨てたらいいですか？



みんなの意見・感想

「飼わないことも愛情です。」とは、どういう意味だと思いますか。

- 飼って犬や猫に辛い気持ちをさせるのだったら、飼わない方が犬や猫のためになる。
- 飼うことが愛情ではなく、最終までお世話ができたりすることが愛情だと思う。
- 捨てられる悲しみを感じなくていいから。
- 最後まで育てる気がないなら最初から飼わないことも愛情だと思う。
- 簡単に飼ってすぐに捨ててしまうより、責任がある人に飼ってもらう方が犬や猫はうれしい。
- どうせ捨てるのなら飼わない方がいい。捨てられた動物の半分以上が殺処分されているから。

今日の授業で、命について考えたことを書きましょう。

- 犬や猫たちの命は人間と同じで、おもちゃみたいに扱うなら最初から飼わない方がいい。
- 人間は死刑とかはあるけど殺処分とかはないから、動物だけ悪いことをしていないのに殺されるのはおかしい。
- ペットたちも自分たちと一緒に生き物だし、同じ命を持っているから自分の命も他の生き物の命も大切にしないといけないと思った。
- 犬を飼ったら人間が一匹の犬の一生を決めることになるから、命を軽々しく見るのではなく、一つしかない命だから大切にしないといけないと思う。
- 「人の命だけを大切にすればいい」ではなくて、犬や猫、他の動物の命も大切にする。

**人間の命も動物の命も、
どれも同じ大切な命。**